

令和3年度学校自己評価システムシート (県立大宮工業高等学校 定時制課程) s 32

目指す学校像 心豊かな人間を育成し、生徒の夢を実現する学校

重点目標	1 学習意欲と基礎学力の向上を図る。 2 基本的生活習慣の確立を図る。 3 自己の適性を知り、希望進路を実現する。 4 地域社会に開かれた学校づくりに努める。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	14名
	生徒	6名
	事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年 度 目 標		
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 2 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 授業規律が保たれており、生徒が安心して学習する環境が整っている。 【課題】 基礎学力の差が大きく、学習に対して苦手意識をもつ生徒も多い。	学習意欲の向上	①ICT及びBYOD環境の整備を行うと共に、研究協議等を通じ、各教職員が本校の生徒の実態に応じた指導方法を研究する。(教務部) ②長期休業において各年次に応じた基礎学力向上への課題を配布した後、実力テストを実施する。成果と課題の見える化を図り、生徒・教職員が正確に基礎学力を把握する。(教務部)	3学期(1月)生徒アンケートで「本校の授業の内容がよくわかっている」が1学期(7月)より上昇したか。	【生徒アンケート結果より】 肯定的な生徒は1学期より1ポイント下がったが、88%と今年度も高い水準を保っている。2度のICTに関する教職員研修会を通じてClassroomを始めとした活用力の向上を図った。結果殆どの教職員が授業へICTを活用できる状況となった。	B	ICTにおける更なる環境整備と教職員の技術向上を図ると共にICTに関する生徒の要望や意識調査を行い、授業改善へ繋げる。学習意欲向上を図るために、資格取得の推進を図る。
		生徒間における基礎学力の差の減少	①学校生活のあらゆる場面で積極的に「声かけ」・「挨拶」を継続すると共に、教員間の情報共有をより密に行う。 ②遅刻者の傾向を分析した上で、欠席・遅刻を未然防止できる取り組みを実施する。	3学期(1月)生徒アンケートで「本校の授業を通じて、学習に対する意欲が向上している」が1学期(7月)より上昇したか。	【生徒アンケート結果より】 授業内容に肯定的な意見を持つ生徒は90%と高い水準を保っている。「家庭学習の定着」が目的の課題を90%の生徒が取り組み、提出した。個票作成を通じて、状況の見える化を図った。	B	本校生徒に必要な基礎学力の向上計画を作成すると共に、理解定着へ重点を置いた活動を検討し、「学習⇒成果⇒定着」への一連の流れの確立を図る。
2	【現状】 基本的生活習慣が乱れている生徒や社会のルールを遵守できない生徒がいる。 【課題】 担任を中心とした学校と家庭の密な連携による指導の充実。	基本的生活習慣の具体的な把握及び確立を図る取組	①学校生活のあらゆる場面で積極的に「声かけ」・「挨拶」を継続すると共に、教員間の情報共有をより密に行う。 ②遅刻者の傾向を分析した上で、欠席・遅刻を未然防止できる取り組みを実施する。	①生徒アンケートにより生徒の挨拶に対する意識が向上し、挨拶が増加したか。 生徒の平均的な生活状況を把握できたか。 ②欠席・遅刻での指導生徒が減少したか。	【生徒アンケート結果より】 概ね全ての生徒が「挨拶をすることができる」と回答した。感染症の影響より出欠席状況の見える化は実施できなかった。心身の不良による出席停止や環境調整不足による遅刻となる生徒が多かった。	B	多様化する生徒の状況や悩みに対応するために、具体的な支援ケースに対する検討を個別に行い、個々の生徒に焦点を当てた活動を実施する。相談窓口や支援情報の提供を積極的に行い、保護者との連携をより深める。
		5S活動(整理・整頓・清潔・清掃・躰)を意識した規範意識の醸成	①5S活動(特に整理・躰)を心がける取組を行い、生徒・教職員でより充実した学校環境を作る。 ②巡回指導の強化・校門指導の実施及び家庭との連携により、問題行動を防止する。	①5S活動を理解し、自ら取り組む意識が醸成されたか。 ②生徒指導案件の数は減少したか。	感染症への予防を通じて、清潔に関する指導や情報発信を行い、生徒個人が高い水準で習慣を身に付けた。生徒指導の件数が昨年度より6件減少した。	B	5S活動における教職員及び生徒の意義や知識・理解を深めるための指標作成や活動に取り組む。事故防止や自己表現など生徒の人間性向上へ繋がる活動などより肯定的な生徒指導の充実を図る。
3	【現状】 自分の適性が正確にわからず、進路の目標を見出せない生徒が多い。 【課題】 生徒の発達段階と適性に応じた進路目標の設定と実現。	1~3年次における発達段階と適性に応じた進路目標の設定	①各年次の発達段階に応じた進路目標の設定と指導の実施を通じ、「卒業後の進路」が「決まっていない」の生徒が20%以下を目指す ②全年次での進路ガイダンスを通じて、積極的な情報提供を行う。	①進路アンケートにより年次ごとに、自分の適性、能力を把握できたか。 ②就職での業種区分及び進学での専攻分野を理解できたか。	進路ガイダンスを通じて、積極的に全年次への情報提供を行った結果、進路アンケートより「卒業後の進路」が「決まっていない」の生徒が18.2%へ減少し、目標値を達成した。	A	3年次終了の段階で「卒業後の進路」が「決まっていない」と回答する生徒を20%以下で維持する。外部との連携も積極的に検討しながら、自身の進路を考える機会の増加・充実を図る。
		卒業年次における進路決定率100%の継続	①社会人基礎力(特に発信力・傾聴力・柔軟性)を身につけさせる機会(LHR等)を充実させる。 ②進路実現に向けて就職者・進学者を対象とした計画的な補習等の指導を実施する。	①課題研究・授業・LHRを含め、社会人基礎力を育成する機会を複数回設けられたか。 ②進路決定率100%が実現できたか。	SST・社会体験活動・課題研究発表会・各LHR等において社会人基礎力に焦点を当てた活動を実施した。2月14日現在で、1名を残して卒業見込生徒の進路が確定している。	B	各年次の発達段階に応じた社会人基礎力の育成計画を作成した後、適切な情報・経験を提供できる機会の増加を図る。
4	【現状】 情報発信を継続することで、地域との連携が育ちつつある。 【課題】 学校からの情報発信の内容や方法を再検討することで、地域への情報発信を間接的だが効果的に行う必要がある。	積極的な学校情報の発信	①各分掌が連携して、HPの更新を定期的に行う。学校紹介動画や授業風景など普段の学校生活についての情報発信も行う。 ②従来の地域への情報発信に加えて、教務部と年次が中心となり、ワラインでの中学校との連携・情報発信を試みる。	①日常的な学校の状況等について、HPでの情報発信の回数が昨年度を上回ったか。(R2年度27回) ②地域や中学校を対象に本校の具体的な情報を伝えることができたか。	行事だけでなく、日常をテーマに、HPは80回の発信を行った。地域への定時制便り(1.2学期分)の発行を行った。説明会・体験入学の実施に加え、定時制紹介ページ・スライド等の作成を行い、情報発信の充実を図った。	A	社会状況や受検者数の変化に対応へ向け、「中学生・保護者・中学校の教職員が必要としている情報」をより正確に捉える。学校説明の動画配信など「各中学校への間接的なアプローチ」の充実を図る。より多くの自治体へ発行物の配付を行い、より本校の取組を広範囲に発信する。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日 令和4年3月24日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・先生方の御尽力により、Classroomの活用は1年かけて子供たちも慣れてきたようである。この活用により逆に対面で相談や意見が難しかった生徒もできるようになったのではないと思う。 ・長期休業中の課題はよかった。まだまだ計画的な学習とまでいかないが、現状の分量でよい。 ・定期考査前になると勉強している様子がよく伺えた。加えて放課後の勉強会は本当にありがたい。 ・ICTの充実を図り、定時制の実態を鑑み、一部に遠隔授業を取り入れてみる体制も考えてみることもありかと思う。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・本校へ入ってくると知らない生徒であっても挨拶をしっかりとしてくれる。大変気持ちが良い。 ・子供と先生方との間に信頼関係ができています。勉強以外にも私的な部分、仕事のことも見えてもらっている印象がある。親以外の大人と話す機会が少ないため貴重な場となっている。 ・親と学校がより連携を取れるシステムができたら良い。 ・この部分の教員と生徒のかかわりが一番大事と考えます。予算面、人事面でバックアップしてほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・「卒業後の進路が決まっていない」と回答する生徒が目撃値をクリアしたことは素晴らしい。 ・生徒は就職や進学を決めるにあたり「この段階にいる」といった進捗状況を教えてもらおうと保護者も家庭で話がしやすい。 ・保護者に向けた進学や就職に関する流れ、ガイダンスが更にあってよい。 ・学校外で実際に企業を見る機会は子供にとって良い経験である。 ・一人でも多くの学生に、進路決定させ卒業させられるよう尽力してほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・HPの更新が増加したことはよかった。今後も本校の良いところを発信して欲しい。 ・宮工祭や課題研究発表会などの画像が中学校に届けられるとよい。本校の教育活動をもっと地域に知ってもらえるような取組が必要である。 ・80回のHP更新、定時制便りの発行は素晴らしい成果であり貢献であると感謝する。 ・生徒・地域がともに認めあえることが大切。生徒の活躍は学校の誇り、見える何かをつくり成果を積み上げることが生徒の自己肯定感の高まりにつながると信じている。 	